

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 I)

事業所番号	0272200346		
法人名	社会福祉法人嶽陽会		
事業所名	グループホームピノッ郷		
所在地	弘前市五代字田屋敷240-1		
自己評価作成日	平成23年6月21日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前は軽い体操やその人に合った機能訓練を行い、本人が好んでやりたい事が出来る時間とし、午後はゲーム等で他の入居者との交流の場としてコミュニケーションを図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの建物に添って、十分な散歩コースとなるベランダがあり、そこからの眺めは広々として開放感がある。職員が付き添い安全を確保しながら、ベランダや敷地内の畑を利用して、日常的に気分転換を図る機会を作っている。また、ホーム近隣に法人内の職員が多数居住しており、いざという時の協力が得やすい体制が整えられていることから、職員は夜勤帯でもあまり不安を感じることなく日々のケアを行なうことができている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成23年7月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>管理者・職員は地域密着型サービスの役割を理解し、事業所独自の理念に基づきサービス提供に努めている。</p>	<p>開設当初から地域との関わりを重要視しており、地域密着型サービスの必要性や役割を反映させた独自の理念を作成している。また、ホーム内の目に付きやすい場所に理念を掲示して、ミーティング時に唱和する等、全職員で共有している。管理者を含めた全職員は常に理念を意識しながら、家庭的な環境づくりを心掛け、一人ひとりに手を差し伸べるような日々のケアに努めている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の一員として、地域の行事に参加したりデイサービス利用者との交流を持てるよう働きかけている。</p>	<p>常時見学を受け付け、実習やボランティアの受け入れも行っている他、地元小学生とも訪問活動や運動会を通して交流を図っている。また、近くのコンビニに買い物に行く等、日常的に地域との交流に努め、併設のデイサービス利用者とも気軽に交流できるよう支援している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>包括支援センターの開催するネットワーク会議に参加し、認知症をテーマに掲げて理解を深めている。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回開催し、メンバーの意見等を引き出し、今後の取組みにつながるように会議の内容を掲示し、サービスの質の確保や向上を図っている。</p>	<p>2か月に1回、事前に議題を通知した上で開催している。利用者の状況やホームの取組み等を報告すると共に、出席者に会議の意義や役割を理解してもらうよう努め、様々な意見を引き出すような働きかけを行い、サービスの質の確保・向上につなげる努力をしている。</p>	<p>町内会長・地区の民生委員等、広く地域の社会資源を活用できるよう、参加を働きかけていくことに期待します。</p>

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市担当課にパンフレットを配布し、地域ネットワーク会議を活用して周知している。</p>	<p>運営推進会議には市職員又は地域包括支援センター職員が毎回参加している。また、3か月に1回発行する広報誌等を市担当課に配布する他、「自己評価及び外部評価結果」も提出しており、制度に関する疑問を電話で相談したり、時には市職員にホームに来てもらって説明を受ける等、情報交換を行っている。</p>		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>内部研修への参加や事業所の会議において、身体拘束についての勉強会を行い、全職員が理解している。また、マニュアルを作成し、いつでも目を通せるようにしている。</p>	<p>身体拘束廃止宣言をし、法人内研修や会議・勉強会等で全職員が理解を深めている他、マニュアルを作成し、日々のケアに反映させている。緊急時にやむを得ず身体拘束を行う際は、その理由や方法、期間、経過観察等について記録を残し、家族等にも入居時に説明し、必要時に同意を得る体制が整えられている。玄関は夜間以外施錠せず、職員同士の連携・工夫により外出傾向の察知に努め、いざという時に備えて近くのコンビニや駐在所に口答で協力依頼をしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修や事業所内の会議にて虐待について勉強し、全職員が理解し、虐待を決して行わないという意識で日々のケアを提供している。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>外部研修や同じ法人内の勉強会に参加し、理解を深めている。必要に応じて、家族へ情報提供をし、サービス利用につなげる支援を行っている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>サービス利用時の契約の際に、事業所の理念や方針について説明し、利用者の同意を得ている。退居時は不安が生じないようにケアマネージャーと連携し、情報提供や支援を行っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に暮らしぶりや状態報告を行い、意見や要望を確認し、話しやすい雰囲気作りに努めている。また、玄関先に苦情ボックスを設置し、苦情等が出された場合には検討して、速やかに対応できる体制をとっている。	玄関に意見箱を設置している他、重要事項説明時に相談機関を紹介し、内外の苦情受付窓口を明示している。面会時、意見や苦情等を引き出せるよう働きかけ、日常的に利用者の表情や言動からも意向を汲み取るよう努めている。出された苦情は内容・対応経過等記録し、全職員で話し合って運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や内部研修の際に意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。	会議や法人全体研修等、職員が話し合える機会が多く、出された意見を運営に反映している。職員の異動については利用者に与える影響を最少にするよう配慮し、職員から勤務体制の希望等を受けた上で検討し、利用者や職員の馴染みの関係を保てるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行い、職員の日々の努力や勤務状況等を把握し、職員が向上心を持って働けるように配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交換実習やスーパーバイズを実施し、質の向上に努めている。また、内外の研修に参加する機会を設け、日々のケアに活かせるよう全職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修に参加して交流する機会を作り、法人内の勉強会や交換実習により、サービスの質の向上につなげている。		

自 外 己 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅介護支援事業所の職員と一緒に、本人や家族の思いを聞き取り、対応している。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や利用者本人が困っていることを話しやすい雰囲気作りに努め、出された要望に対応できるよう、信頼関係づくりに努力している。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーからの情報提供や、本人の生活歴・自宅での習慣等を家族や本人からも情報収集し、検討した上、ニーズに合わせて対応している。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や日々の活動等、一緒に暮らしている中で、利用者一人ひとりの知恵ややり方を教えてもらい、喜怒哀楽を共感することで、より良い関係を築いていけるように努めている。			
19	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に本人の状態を報告し、話しやすい雰囲気作りに努めながら、家族の要望を随時確認している。			
20 (8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧岩木町からの利用者が多く、併設しているデイサービスを地域の人が利用している時にはデイサービスに行き、関係が途切れないようにしている。また、昔から利用している美容院やお店に行けるように支援している。	入居時のアセスメント以外にも常に情報収集に努め、家族の協力も得ながら、知人等と連絡が取れるよう支援している。また、デイサービスの利用者との交流を継続できるように努めている他、馴染みの理美容院や商店に出かけたり、お墓参りをする支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の作業や活動を一緒に行いながら、利用者同士が声を掛け合い、協力できるような場を作ることで、孤立することなく、お互いに助け合えるように支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅介護支援事業所と協力しながら、必要に応じて相談事に対応する他、退居先へ利用者の生活歴等を伝える等、関係性を大切にしよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らしの希望や意見を聞き、必要に応じて家族からの協力も得て、把握に努めている。	入居時に本人や家族からの聞き取りをし、意向の把握に努める他、必要に応じて友人等の関係者より情報を得ている。利用者担当制で、馴染みの関係を作りながら一人ひとりの思いを汲み取るようなケアを心掛け、職員の連携により情報の共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より、これまでの暮らし方や生活環境を聞いてフェースシートへ記入する他、サービス利用の経過等をケアマネージャーより情報提供してもらっている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のプライバシーに配慮しながら、本人の1日の暮らしぶりを観察し、「できること」「苦手なこと」を把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやユニット会議において、本人や家族、関係職員の気づき等を話し合い、検討した上で、介護計画に反映させている。	本人や家族の意見・希望を確認した上で関係職員が話し合い、必要に応じて看護師からもアドバイスを受ける等、個別具体的な介護計画を作成している。6ヵ月毎の見直しが基本だが、日々の観察により、本人の状態変化や意向の変化があった時は随時見直している。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルを作成し、一日の暮らしぶりやケア内容を記録し、いつでも情報を共有できるようにファイリングして、保管している。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り 組んでいる	一人ひとりのニーズに合わせて支援し、時には家族の協力も得ている。			
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や包括支援センター、家族等の協力体制のもと、本人が施設生活を満足して過ごせるように支援している。			
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する病院を受診しており、通院方法や受診結果については、随時、家族と確認しながら行っている。また、必要に応じて専門科への通院等も促している。	利用者の多くは入居前からの医療機関で継続して受診している。家族が対応困難な場合には通院介助しており、定期受診については面会時に報告している。また、緊急時や他科受診の際は電話で事前・事後の報告を行い、情報の共有を図っている。		
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイサービスの看護師が随時状態の確認を行っている。また、医療連携加算により、定期的に法人内の看護師が訪問し、利用者の状態を把握している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院、家族との連携を密にして、情報交換や相談をすることで、早期に退院できるように支援している。また、退院後のケアについても、退院時のサマリーをもとにケアの方法を考えている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者や家族の意向を踏まえた上で話し合いをし、事業所としての指針を説明して、了解を得ている。また、医療機関や看護師の意見も確認し、意思統一を図っている。</p>	<p>事業所としての方針を明確にしており、入居時本人や家族に説明している。状態が悪化した際に意思を再確認した上で同意を得、医療機関や法人内の看護師とも意思統一を図り、関係者が常に連携を密にして支援していく体制となっている。また、終末期の対応について法人内研修を行い、事業所としての対応等も職員間で話し合い、共有を図っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>夜間の対応も含めて、利用者の急変時や事故発生に備えたマニュアルを作成している。また、勉強会や看護師の指導を随時行っている。</p>			
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害に備えた非常食や、毛布等の確保をしている。また、年2回、夜間・日中を想定した避難訓練を行っている。緊急連絡網を作成し、近隣スタッフがすぐに駆けつけられるようにしている。</p>	<p>日中・夜間想定で年2回避難訓練を行い、消防署職員の参加・指導による訓練も行われている。また、年1回業者委託で設備点検が行われている他、毎日の夜勤前には両ユニットの夜勤者で避難誘導の確認作業も行っている。近隣に法人職員が多数居住し協力が得られる体制にあり、近くのコンビニや消防署などへも協力を依頼している。</p>		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14) ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーが保たれるよう、利用者の居室に入室する際は必ず声掛けをしてから入室し、物品を許可なく触れたりしないようにしている。利用者に対しては一人ひとりを尊重した声掛けに努めている。	職員同士でサポートし合い、利用者の言動を否定しないよう努めている。一人ひとりの人格を尊重した呼びかけをし、居室には名前を明示せず、目印になるものをドアにつける等の工夫をしている。また、実習生等の受け入れの際には守秘義務等について説明し、ケース記録等の個人情報は外部の人が出入りしない場所に保管している。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の力量に応じ、自己決定できるように促し、利用者の希望や意思を尊重できるように努めている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の希望や身体・精神状況に合わせ、できる限り本人のペースで過ごせるようにしている。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装を選ぶ際は、本人の好みに合うように手伝っている。また、本人の行きつけの美容院へ送迎したり、希望時には髪染めの支援を行っている。			
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲での食前の準備や食材刻み、食後の後片付け等を毎日一緒に行っている。苦手な食物については好みに合う別の代替食で対応している。	法人内の栄養士がカロリー計算して献立を作成しており、好き嫌いや体調を考慮して代替食も用意している。可能な限り職員も一緒に席につき、さり気なく食べこぼし等へのサポートをしており、食事の下ごしらえや後片付け等も利用者の範囲で一緒に行っている。また、行事の際にはバイキングや屋台村と称し、食券を買って好きなものを選んで食べる等、食事を楽しむ工夫をしている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が毎日のメニューを考えており、栄養バランスが保たれている。食事以外にも団欒の際にはお茶やコーヒーを提供したり、外出後や入浴後に必ず水分を提供して水分量を記録する等、水分摂取の管理をしている。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回義歯洗浄の声掛けを行い、上手くできない利用者には、見守りや介助をしている。利用者の希望に応じて、義歯洗浄剤を使用した口腔ケアに努めている。			
43 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ介助が必要な方には、定期的に声掛けをし、誘導している。また、排泄表に記録し、失敗を少なくするように努めている。	排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、事前のトイレ誘導を行っている。本人の状況や希望に応じてオムツやパット等を使い分け、ミーティングや申し送りノートで情報の共有を図り、随時見直しを行なっている。また、トイレ誘導時や失禁時には、他の利用者に気付かれないようにする等、羞恥心に配慮している。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の際は排便を促す体操や腹部マッサージを行い、食材も繊維質の多い物や乳製品を提供している。下剤服用時は看護師や主治医と相談し、指示を仰いでいる。			
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	定期的に入浴できるようにしており、それ以外にも本人の希望があれば随時対応している。介助が必要な方には手助けし、安心して入浴できるようにシャワーチェア等も使用している。	一人ひとりの入浴習慣や希望に応じ、体調や羞恥心に配慮しながら入浴を楽しめるよう支援している。毎日入浴が可能な状態であり、利用者が入浴を拒否した場合は、時間や職員を替えて声がけしたり、入浴日を変更する等、柔軟に対応している。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠を防いで良質で十分な睡眠を確保するために、日中はなるべく体を動かす機会を設け、活動への参加を促している。また、睡眠剤服用時は看護師や主治医に随時相談しながら服用の支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用時は利用者名を一人ひとり読み上げて確認している。また、薬の目的や副作用を把握するため、処方箋のコピーを通院する毎にファイリングし、変更があった際はその都度日誌等で申し送りを行っている他、服用後の観察を行い、職員全員で把握している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や趣味、嗜好を把握し、意欲の向上や楽しみのある生活ができるように援助している。また、利用者同士のレクリエーション等、お互いの喜びや絆を深める機会を設けている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に添った行事や外出の計画を立て、気分転換を図っている。また、個々の希望に添って買い物や外出等の支援も行っている。	日々のケアを通して希望の把握に努め、身体状況等を考慮した上、近くのコンビニへの買い物や、ベランダ、畑の散策等、日常的に外出できる機会を設けており、気分転換を図っている。必要に応じて併設のデイサービスの大型車を利用し、可能な限り希望に添った外出の支援をしている他、雛祭りや敬老会の際は家族への参加も呼びかけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は自己管理してもらっている。また、管理が難しい方やお金に対し不安がある方は、家族の合意を得てお小遣い程度のお金を管理してもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をする際は、プライバシーに配慮し、自室で子機を使用できるようにしている他、手紙を出す際にも支援している。			

自己外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビの音量や室内の明るさは適度であり、季節を感じる事ができるように、ホーム内に花や飾り等を設置して家庭的な雰囲気を保てるように配慮している。</p>	<p>職員の作業音や話し声は騒がし過ぎず、テレビや音楽等の音量も適切である。日射しに合わせてその都度照明等を調節し、乾燥対策として室内に洗濯物を干したり、濡れタオルや霧吹きを利用して、適切な温・湿度を保つよう配慮している。四季折々の花や行事にちなんだ貼り絵を壁に飾ったり、食事メニューでも季節を感じられるよう工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室が個室のため独りになれたり、気の合った者同士で居室に行ったり来たりし、思い思いに過ごすことができる。</p>	/	/	
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前から愛用していた物や仏壇等を持ってきて、一人ひとりにあった居室作りをし、安心して過ごせるように支援している。</p>	<p>入居時、家族に、馴染みの物を持ち込むことの必要性について説明し、以前から使用していた馴染みの物を持ってきてもらうよう働きかけている。持ち込みがない場合は、本人や家族と相談しながら一人ひとりに合った居室作りができるよう支援している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>館内はバリアフリーで手摺りも設置されており、安全に移動することができる。また、目印が必要な際は個々に合わせて表示を付ける等、工夫している。</p>	/	/	